



風の音楽を
お届けします



Viento Office

くまもと文学・歴史館開館記念イベント

Viento ミニコンサート

平成28年1月30日 土曜日

①11:00- ②14:00-

場所:くまもと文学・歴史館 展示室3

要事前申込 くまもと文学・歴史館 TEL096-384-5000

吉川万里 Banri Yoshikawa / ケーナ・サンボーニャ・オカリナ

1958年熊本県八代市生まれ。
大学(東海大学)時代からプロのジャズバンド・トロンボーン奏者として活躍していたが、南米のfolkloreグループ「コンドルカンキ」とのジョイントコンサートをきっかけに、アンデス民族楽器に魅了される。その後、アルゼンチン在住のレネ・カレアーガ氏に師事。1996年に南米音楽の旅を経て、運歌しながら40歳でプロのアンデス民族楽器奏者に転向。アンデスの自然のもつ素晴らしいと似ていると、生まれ故郷に近い「阿蘇」を活動の拠点と定める。

若き日にバンドで培った技量は、他のアンデス民族楽器奏者とは異なる響き醸し出す。また、彼の熊本弁によるとつとつとした「何気ない語り」は単に楽曲と楽曲のつながりではなく、そこに集うものがある。そんな彼の語りなくしては、ビエントサウンドは完成しないといっても過言ではない。

最近では、この暗い経済の流れの中で消えてしまいうような自然や憩いの場を痛め、これらが多く点在する阿蘇大陸をもう一度よく見つけ、腰を据え直して活動を続けている。

竹口美紀 Miki Takeguchi / 作曲・シンセサイザー

東京都生まれ。
両親が故郷・熊本に居をかまえるのに伴い熊本に移り住む。
熊本音楽短期大学(現・平成音楽大)卒業。ヤマハ音楽振興会音楽教育システム講師を務める。
作曲・演奏家として独立。熊本の自然をテーマに作曲を続ける。
阿蘇を愛し西原村に移り住む。

日常生活の中で自然を体感。休山の雨風に揺れるすずきたちと踊り、春を迎えるための阿蘇の野焼きを音符にし、耳をすまし心を傾けて過ごした阿蘇の一年が組曲を生み出す。畑の虫食いの野菜を食べながら自然に感謝する。そんな自然の彼女の作曲からビエントサウンドは始まる。そして、音大で電子音楽を基礎から学んで開花した音楽的センスで踊るようにシンセサイザーを操る。

最近では、歴史の中に埋没していく負の遺産を後世に伝えることに自覚め、作曲を重ねる。炭鉱を音で綴った「組曲 風の刻印」はその代表作であり、聞く者全てに感動を与えている。

主催:熊本県立図書館・くまもと文学・歴史館